

3. 貸付資本の成立

貨幣資本と現実資本との分離

今回のキーワード

- ⊕ 信用
- ⊕ 高利貸し
- ⊕ 信用リスクと不良債権

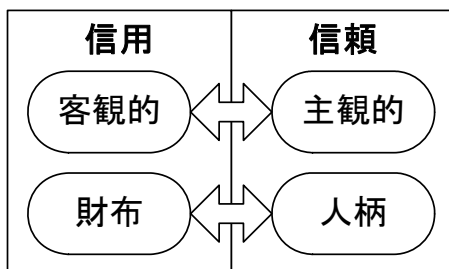
今回の課題

- ✓ これまでは自己金融を仮定
⇕ しかし
ここで企業間の資金融通を説明する。
- ✓ 実際には金融機関によって仲介
⇕ しかし
ここでは金融機関は無視する。

A. 信用の二つの形態

- 市場社会の下での掛売
 - ※ [前近代社会でも、ある程度市場が発達すると]
 - 貨幣支払に対する信用
- 資本主義社会の下での貸付
 - 信用制度＝銀行制度の下での貸付
 - 貨幣返済に対する信用
- 所有権が絶対的＝物権的権利と
相対的＝債権的権利とに分離

信用と信頼



信用の意義

- 掛売
 - 代金支払に対する信用
 - 取引はすでに成立した
 - 有効需要の置換
- 貸付
 - 金銭返済に対する信用
 - これから取引を引き起こす
 - 有効需要の増大

B. 貸付の二つの実体

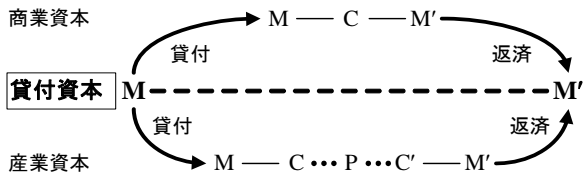
- 前近代的共同体の下での高利貸し
 - ※ [資本主義社会でも消費者向け貸付においては]
 - ・信用の欠如の表現
- 資本主義社会の下での貸付
 - ・信用制度＝銀行制度の下での貸付
 - ・一般的な期待利潤率が出発点
 - ・信用の存在の表現

貸借対照表で見ると…

借方	貸方	
資産	負債 他人資本	{ 金融機関からの借入, 社債など } =有利子負債 { 買掛金, 支払手形など } =無利子負債
	資本 自己資本	

貸付資本

- 基本ラインは企業間での金銭貸借
 - 実際には金融機関によって媒介



返済・利子支払能力

- 企業活動すれば一定の利潤を期待
- 実際に獲得した利潤の中から利子を支払うことが可能

利潤	
利子	企業利得

貨幣市場の形成可能性

- 企業活動の中で
- 一方では資金供給
 - ・余分な無駄金, 準備金, 積立金など
 - 他方では資金需要
 - ・追加投資, 固定設備の更新など

利子のコスト化

- 利子分しか稼げない企業活動は無意味になる。
- 社会に存在するすべての貨幣は利子を生むはずの資本になる。
- 割引現在価値
- 資本還元

実体経済と貨幣経済

- 企業活動によるカネモウケ
(利潤を生む) から
貸付によるカネモウケ
(利子を生む) が分離
- ↓ これによって
- 実体経済から貨幣経済が分離

貸付資本の歴史的意義

- 前近代的共同体の高利貸し
 - ・ 消費者・非商品生産者向けの高利貸付
 - 利率の上限なし
- 現代社会の貸付資本
 - ・ 企業向けの低利貸付がベース
 - 期待利潤率が利率の上限
 - ・ 逆に言うと、現代社会でも、消費者向け貸付は高利
 - 利率の法的上限の必要性
 - 闇金業者
 - 消費者金融への銀行の参入
- ひとえに、産業を企業が支配しているかの違い

法律的所有と経済的所有との対立

- 法律的所有
 - ・ 貸し手企業
 - ・ 貸し出された貨幣資本の所有権
- 経済的所有
 - ・ 借り手企業
 - ・ この貨幣で買われた現実資本の所有権

銀行による信用創造の場合には…

- 単なる私的企業である銀行が
情報を集中し、借り手企業の経営の
モニタリングを行う。
- 既にある潜在的貨幣資本の
単なる有効利用ではなく、
貨幣資本そのものの新たな創造が
行なわれる。

株式会社の場合には…

- そもそも私的所有者（資本家）が
日常的なモニタリング（経営執行）から
排除される。
- そもそも現実資本が
資本家の所有物ではなくなる。